

川内原発許可取り消さず

福岡高裁判決 住民側再び敗訴

九州電力川内原発1、2号機（鹿児島県薩摩川内市）が、原発の安全対策を定めた新規制基準に適合するとした原子力規制委員会の判断は火山リスクの検討が不



控訴棄却の判決を受け、福岡高裁前で「不当判決」と書かれた紙を掲げる原告。27日午後、福岡市中央区

川内原発再稼働を巡る経過

2011年3月	東京電力福島第1原発事故
12年5月	九州電力川内原発1、2号機の運転差し止めを求め、住民らが鹿児島地裁に提訴
13年7月	新規制基準施行。九電が原子力規制委員会に審査申請
14年5月	再稼働差し止めを求める仮処分を住民らが地裁に申し立て
15年4月	地裁が仮処分申し立てを却下
8月	1号機が新基準で全国初の再稼働。10月には2号機も
16年4月	仮処分申し立てで福岡高裁宮崎支部も差し止め認めず
6月	1、2号機の設置許可取り消しを求め住民らが福岡地裁に提訴
19年6月	地裁が許可取り消しを認めない判決
25年2月	鹿児島地裁が差し止めを認めない判決
8月27日	設置許可取り消し訴訟で福岡高裁も取り消しを認めない判決

判決は初めて。住民側は上告するかどうか「慎重に検討する」としている。

原告は9都県の住民29人。争点は火山噴火を想定した規制委の安全対策指針「火山影響評価ガイド」の合理性や、始良（鹿児島県）や阿蘇（熊本県）など、原発周辺にある五つのカルデラ火山の巨大噴火リスクをどう評価するかどうか。

松田裁判長は火山ガイドについて「安全上の指針に整合的で、火山学に関する専門的知見を踏まえた検討を経て作成されており不合理とは言えない」と指摘した。「巨大噴火は差し迫った状況ではない」とした規制委の判断についても、過去の噴火の間隔などから「相当の根拠、資料がある」と説明。「審査に看過したい過誤や欠落があったとは認められない」として、設置許可は適法と結論付けた。

判決を受け、規制委の山中伸介委員長は定例記者会見で「安全上の指針に整合的で、火山学に関する専門的知見を踏まえた検討を経て作成されており不合理とは言えない」と指摘した。「巨大噴火は差し迫った状況ではない」とした規制委の判断についても、過去の噴火の間隔などから「相当の根拠、資料がある」と説明。「審査に看過したい過誤や欠落があったとは認められない」として、設置許可は適法と結論付けた。

見で「川内原発の設置変更許可の審査は大きな課題があったわけでもなく、適切に行われたものと考えている」と述べた。九電は「妥当な結果だと考えている」とのコメントを出している。

川内原発を巡ってはこれまで別、九電と国に運転差し止めを求めた訴訟を住民らが鹿児島地裁に提起。2月に敗訴して、福岡高裁宮崎支部に控訴している。

島全域に火山灰をまき散らす噴火を起こした阿蘇カルデラ（熊本県）から約150キロに立地する。鹿児島最大の井村隆介教授（地質学）は「原発があることで放射能を含んだ灰が全国に降る恐れが生じることが懸念される」と指摘。「噴火の兆候を事前予測するのは困難で、（影響を避けるため）事前に原子炉を廃炉にして、使用済み核燃料を運び出す時間はないかもしれない。このリスクを社会が考えないといけない」と強調した。

「火山リスク向き合わず」

原告ら判決に強い不満

九州電力川内原発1、2号機の設置許可を取り消さなかった27日の福岡高裁判決は、原子力規制委員会の判断を「相当な根拠、資料がある」として追認した。同原発周辺には火砕流が広範囲を覆う巨大噴火を起こ

したカルデラが集まるが、規制委の判断に不合理な点がないかを重視しており、噴火の影響を十分に検証したかは疑問が残る。「裁判所は噴火リスクに向き合っていない」。原告や識者からは批判の声が出た。

「全く理不尽。不当極まりない判決だ」。原告代表の青柳行信さん（78）は判決後に福岡市であった記者会見で怒りの声を上げた。

一審判決は審査基準となる「火山影響評価ガイド」の合理性について「疑いが残る」としたが、控訴審判決は「不合理ではない」と判断。原告側弁護団は「ガイドに相当の根拠がある」ということが非常に安易に認定されている」と憤った。

原告側は1万年に1回程度の破局的噴火の可能性も考慮すべきだと主張したが、判決は「差し迫った状況でない」と退けた。弁護団の海渡雄一弁護士は2011年の福島第1原発事故直後に比べ、国の姿勢に追随する判決が増えていくとして「司法が国の原子力政策に屈している。この流れが定着したら、第二の原発事故が起きる」と危機感をあらわに。広瀬弘志（東京女子大名誉教授・災害リスク学）は「手続き論に終始し、中身に踏み込んでいない。非常に受け身な判決だ」と切り捨てた。

川内原発は約3万年前に破局的噴火があった始良カルデラ（鹿児島県）から約50キロ、約9万年前に日本列

輔

（野村創、平山成美、森亮